



旧若杉小学校跡地の本格活用に関する検討

オープンハウスにご来場いただきありがとうございます。

区では、旧若杉小学校跡地の本格活用に関する検討の取組として、令和6年11月から令和7年2月にかけて、全4回のワークショップを開催しました。今回、ワークショップで説明した内容や各グループで検討した活用案についてパネル展示を行うとともに、跡地活用に関するご意見を伺うため、オープンハウスを開催します。

オープンハウスのプログラム

○パネル展示をご覧ください

ワークショップで説明した内容等をまとめたパネルをご覧ください。

○アンケートにご協力ください

パネル展示や区職員の説明等を踏まえて、アンケートにご記入いただき、この取組に対するご意見をお聴かせください。

回答期限：4月6日（日）

※アンケートはWEBフォームからでもご回答いただけます。

この取組を詳しく知るには…

ワークショップ当日の配布資料のほか、これまでの経緯などについて、区公式ホームページ（右二次元コード）に掲載していますので、ぜひご覧ください。



ワークショップの概要

旧若杉小学校跡地の本格活用に向けた検討に当たり、
まちの魅力向上や地域の課題解決に繋がるよう、

旧若杉小学校跡地をどのような場所にするか

様々な立場の皆さんと考えるため、ワークショップを開催しました。

この地域の課題を
解決できる場所にな
ると良い！



訪れたいと思える
魅力ある場所になると
いいと思う

- このまちがもっと好きになる、ずっと住み続けたい
- この場所に訪れたい

と思えるような、旧若杉小学校跡地の本格活用の

「コンセプト」と「コンセプトに基づく活用方法」

をワークショップで検討しました。

〔ワークショップ全体のスケジュール・概要〕

● 第1回

R6/11/2

- ・施設の現状や地域が抱える課題を共有しよう！
- ・旧若杉小学校跡地の活用方法を考えてみよう！

● 第2回

R6/12/15

- ・地域に必要な機能や役割を考えてみよう！
- ・旧若杉小学校跡地の活用アイデアを各グループで出し合おう！

● 第3回

R7/1/26

- ・旧若杉小学校跡地の本格活用のコンセプトと目指す将来像を考えてみよう！

● 第4回

R7/2/23

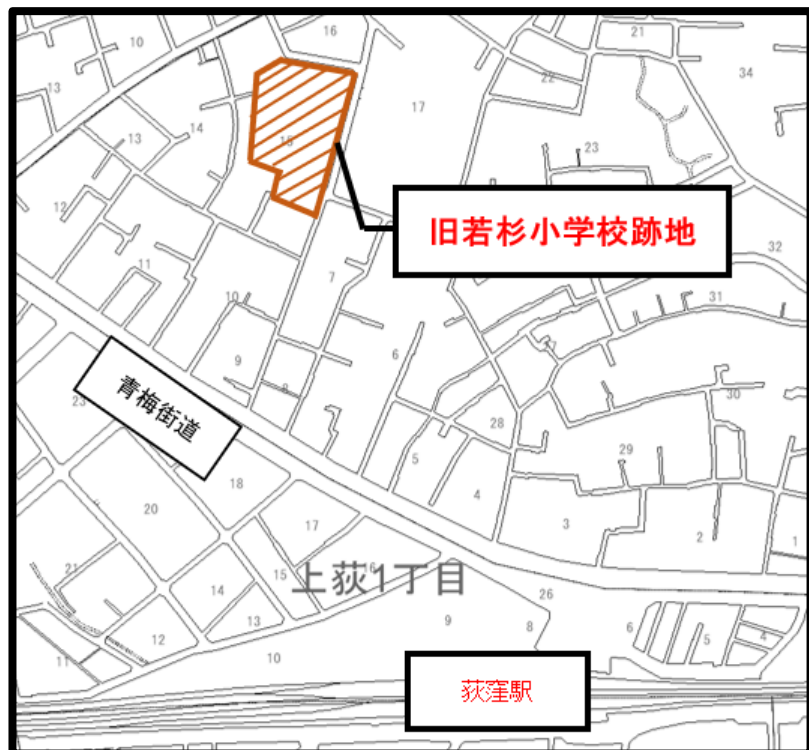
- ・各グループで旧若杉小学校跡地の本格活用のアイデアを具体化しよう！
- ・完成した成果物を全体で共有しよう！

旧若杉小学校跡地について

旧若杉小学校（天沼3-15-20）

荻窪駅北口から徒歩約 7 分

青梅街道と環状八号線の 2 つの
幹線道路に近い、商店、事業所、住宅
などが混在する地域の中にあります。



■敷地概要

用途地域：第一種中高層住居専用地域

指定建ぺい率： 60%

指定容積率：200%

■建築概要

敷地面積：7,424.14m²

建築面積：2,549.83m²

延床面積：5,489.22m²

体育館・プール棟

建設年：昭和55（1980）年

築年数：44年

延床面積：919.91m²

階数：地上2階建て



西校舎

建設年：昭和44（1969）年

築年数：55年

延床面積：2,493.50m²

階数：地上3階建て

北校舎

建設年：昭和42（1967）年

築年数：57年

延床面積：1,901.39m²

階数：地上3階建て

一番古い校舎は築50年を超えることから、令和5年度には、本格活用に向けて既存校舎の活用方針（活用または解体）を検討するため、躯体の状況調査を行いました。

この調査や様々な角度から比較検討した結果、**既存校舎の解体**を前提として、跡地活用を検討することを基本的な方向性とししました。

閉校からこれまで

- **平成20年** (2008年) 旧若杉小学校 閉校 ・ 天沼小学校 開校
 - 旧若杉小学校跡地活用に係る懇談会提言
 - 当時の行政需要に対応するため、**暫定的に跡地活用**する方針に変更
- **平成22年** (2010年) 天沼小学校が現在の場所に移転
- **平成23年** (2011年) 保育室若杉 開設
- **平成27年** (2015年) 重症心身障害児通所施設「わかば」 開設
- **平成28年** (2016年) 日大幼稚園仮設園舎貸付開始 (平成30年3月まで)
郷土資料室保管庫として使用開始
- **平成30年** (2018年) パピーナ荻窪天沼保育園 開設
さざんかステップアップ教室荻窪教室 開設
- **令和5年～令和6年** (2023年) (2024年) 意見交換会 (令和5・6年度に地元町会を対象に全5回)
 - 本格活用を求める地域の声や暫定活用を行っている施設の移転や廃止などの状況を踏まえて、**今後の本格活用に向けて**検討を開始
- **令和6年** (2024年) **11月** ワークショップの開催 (全4回)
～令和7年 (2025年) **2月**

今後、跡地活用の内容を検討するに当たっては、適宜、オープンハウス等を開催し、幅広く意見を聞きながら取り組んでいきます。

ワークショップで参加者に説明した情報

ワークショップで活用案を検討していただくに当たり、以下の内容について説明しました。

01

地域の方からいただいた意見

平成20年12月の旧若杉小学校跡地活用に係る懇談会の提言や令和5・6年度に地元町会を対象に意見交換会を開催し、跡地活用に関する意見をいただきました。

02

天沼小学校・天沼中学校の皆さんが考える活用方法

ワークショップに先立ち、近隣の天沼小学校・天沼中学校の皆さんに、アンケートの実施や活用方法を検討していただきました。

03

荻窪消防署天沼出張所の老朽化

令和5・6年度に地元町会を対象に実施した意見交換会において、地域の課題の一つとして挙げられました。

04

区として考えられる活用方法

懇談会提言や意見交換会などで挙げられた地域の課題や近隣の区立施設の状況を踏まえて、区として考えられる活用方法について検討しました。

詳細は6枚目以降をご確認ください

●旧若杉小学校跡地活用に係る懇談会提言

（平成20年12月：旧若杉小学校跡地活用に係る懇談会）

旧若杉小学校跡地の活用について、地元住民の意見を集約するために、住民や商店会、学校関係者からなる懇談会を設置し、今後の跡地活用案を検討するための提言を受けました。

◆実現したい3つの提案

- ①地域の防災性を考慮し、できるだけ広くオープンスペースを確保し、通常は子供達や地域の人々が利用できるように、希望します。
- ②既存建物のうち、体育館・プール棟は残して、地域の人々が利用する施設として活用することを希望します。
- ③既存建物の活用または新たな施設を建設する場合は、地域の人々の会合や子育て世代の活動、青少年の交流や生活体験など、多様な活動が行える機能を兼ね備えることを希望します。

●意見交換会

（令和5・6年度に地元町会を対象に全5回実施）

ワークショップに先立ち、地元町会の方々と、地域の課題等について、意見交換をするために5回開催しました。

◆意見交換会で出た主な意見

- 閉校してからこれまで暫定活用が続いた、15年という時間の重みを感じてほしい。
- 旧若杉小の周囲は、道路も狭く住宅も近いことを踏まえて跡地活用を検討してほしい。
- 防災は重要なキーワード。誰でも平等に使える跡地活用の方法として検討すべき。

まとめ

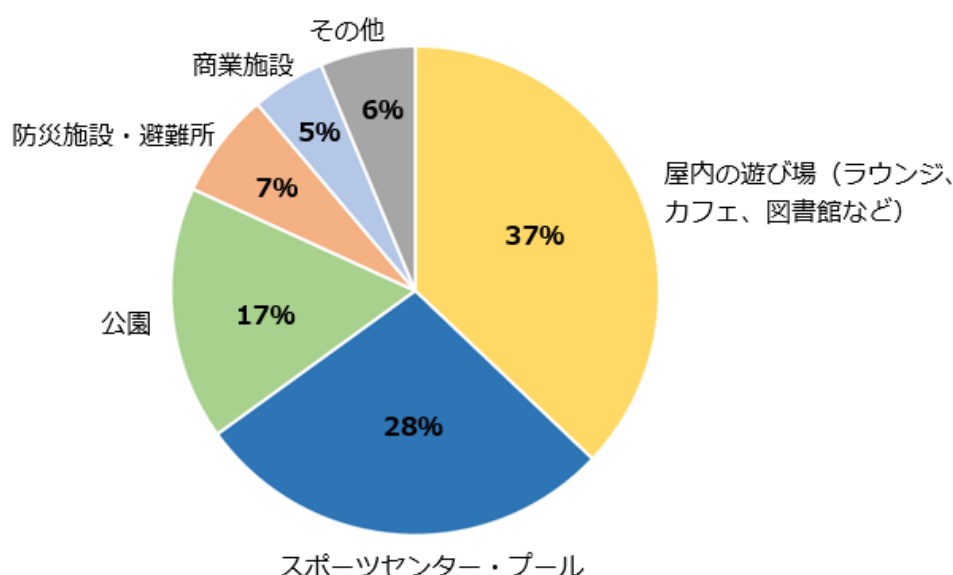
旧若杉小学校跡地周辺は、木造建築物の密集度の高い住宅地であるため、地域の防災性の向上を図ることを目的とした**オープンスペースの確保**や、**子どもや地域の人々などが多様な活動を行うことができる場所**となることを求める声がありました。

02

天沼小学校の皆さんが考える活用方法

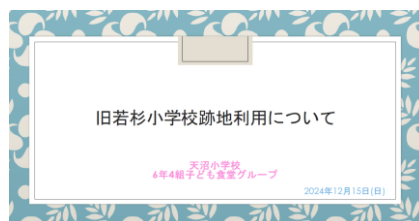
〔意見を聴く取組〕

①区が6年生を対象に、「旧若杉小学校跡地の活用アイデア」についてアンケートを実施



②活用方法の検討・提案

（2グループ・総合的な学習の時間にて）



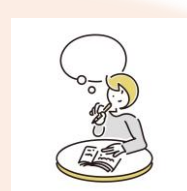
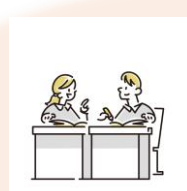
- ▶子どもから高齢者まで幅広い世代の交流の場となるような**子ども食堂**としての活用
 - ▶**広い公園・運動場**としての活用
- の2つを提案していただきました。

02

天沼中学校の皆さんが考える活用方法

〔意見を聴く取組〕 ①生徒会から全校生徒にアンケートを実施

②アンケート結果を基に、生徒会で活用方法のまとめ



災害時には避難所としても活用できる、屋外・屋内の様々な運動が楽しめる場所

勉強やおしゃべりできるカフェなどが入ったショッピングモール

みんなにとっていきやすい場所となるような活用アイデアを提案していただきました。

令和5・6年度に地元町会を対象に実施した意見交換会において、地域の課題の一つとして「荻窪消防署天沼出張所の老朽化」が挙げられたため、消防署の職員からワークショップで情報提供を行っていただきました。



▲現庁舎の全景

POINT

- 築64年が経過し老朽化が進んでいることから、改築が計画されており、平成27年7月から改築用地の情報収集を開始しましたが、現在まで改築用地の決定には至ってはいません。
- 現在の庁舎は敷地面積が非常に狭く、必要な機能を整備することが難しいことから、別の場所での改築を検討しています。

これまで把握してきた天沼地域の課題や近隣の区立施設の状況を踏まえて、次の3つの活用方法を検討し、ワークショップで示しました。

①公園の整備



区民1人当たりの公園面積の目標値は5㎡ですが、令和6年4月時点では2.27㎡となっています。また、旧若杉小学校跡地が所在する天沼地域の区民1人当たりの公園面積は僅か0.61㎡に留まっています。

整備した場合のメリット

- ▶ 公園を整備することで、平常時には子どもから高齢者まで幅広い世代の憩いの場となり、発災時には避難場所等として活用できると考えています。

② 上荻保育園の移転



区立保育園は、地域の保育園を支援する立場であることや、増加傾向にある障害児や医療的ケア児の受け入れ先としての役割など、その重要性が増していることから、当面の間、民営化や廃止を行わず、現在の27園を維持する方向性です。

なお、現施設は築50年を迎えており、改築を検討する必要があります。

移転した場合のメリット

- ▶ 旧若杉小学校跡地に上荻保育園を移転することで、現在の場所から近いこと、仮設園舎が不要であることから、園児や保護者の負担軽減や整備費用を抑えることができると考えています。

③ 上荻児童館の移転



令和7年1月に「杉並区子どもの居場所づくり基本方針」を策定し、子どもの居場所を充実していくため、今ある25の児童館をすべて残し、児童館の機能・役割を強化するとともに、児童館の内7館を「中・高校生機能優先館」とし、中・高校生の居場所を充実していきます。

なお、現施設は築50年を迎えており、改築を検討する必要があります。

移転した場合のメリット

- ▶ 旧若杉小学校跡地に上荻児童館を移転することで、主な近隣小学校である天沼小学校から児童館までの距離が近くなるとともに、学童クラブも含めて休館せずに改築することができます。さらに、中・高校生機能優先館として位置付けることで、荻窪地域の中・高校生の居場所機能の充実を図っていきたいと考えています。

1 グループが作成した成果物

group

01

コンセプト

key word

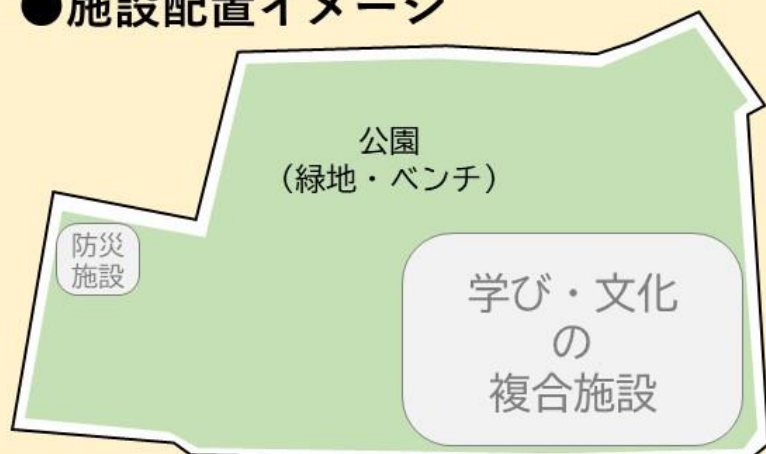
学び・文化

世代・アイデンティティを超えて文化・学び合い・安心を享受できる場

目指す将来像

- ①杉並の文化・歴史を学び継承する場
- ②子どもも大人も学び合い交流できる場
- ③誰でも立ち寄れる癒し・憩いの場

●施設配置イメージ



POINT

将来像①の活用案

- ・芸術、文化、平和、歴史について学べる展示ギャラリー
- ・演劇・音楽活動に利用可能な稽古場やホール

将来像②の活用案

- ・誰でも（個人・団体）使えるラーニングスペース
- ・コワーキングスペース（スタートアップ企業office）
- ・カフェスペースと一体的な学びの場

将来像③の活用案

- ・公園（緑地・ベンチ）
- ・公園と一体となった屋内フリースペース
- ・子ども食堂、カフェ
- ・防災倉庫

※公園、屋内フリースペース、子ども食堂などが災害時に防災拠点として活用できる

感想共有エリア

自分も必要だと思う機能や面白いと思ったアイデアなど、**いいね！**と思ったことを付せんに書いて貼りましょう！

2グループが作成した成果物

group
02

コンセプト

key word 多様な居場所・交流

私が私でいるための安心・安全なよりどころ

目指す将来像

「国籍、ジェンダー、障がいなどの属性に関わらず、老若男女誰一人取り残さない場」

「ダイアログ（対話）を通した、コミュニケーションを深める場」

●施設配置イメージ



班のメンバーから複数のアイデアの提案がありました



POINT

建物…

- 様々な属性の人が安心して過ごせる居場所・知識や情報を発信し、コミュニケーションを深め、繋がることのできる場
- ▶知識を持つスタッフに気軽に相談できる場所をつくる
- ▶ラウンジや集会室を設け、学び合い・集い合い・つながり合う場所をつくる
- ▶資料室や情報発信スペースなどの情報発信の場をつくる
- ▶それぞれの課題に対応する組織同士が横の繋がりを保持する場をつくる(個々人に応じたきめ細やかな対応ができるように)

LGBTQ+
男女平等
引きこもり
障がい
国籍…

○若者や中高生のための居場所

- ▶学習スペースを設けて勉強ができる場所を設ける
- ▶体育館のような運動できる場所を設ける
(若者、中高生の居場所となるようにお金はかからないように!)

○一人でもいられる場所

- ▶ラウンジを設けて、一人でも気軽に行ける、目的が無くても行ける居場所となるようにする

広場…

○あらゆる人たちの居場所として

- ▶運動できる場所を設ける
- ▶皆が集まる場所を設ける
- ▶一人でもいられる場所を設ける

森を設けて、維持管理の活動を皆で行う中で交流が生まれていく、ということもあるのでは？
…というアイデアもありました。

感想共有エリア

自分も必要だと思う機能や面白いと思ったアイデアなど、**いいね！**と思ったことを付せんに書いて貼りましょう！

3グループが作成した成果物

group

03

コンセプト

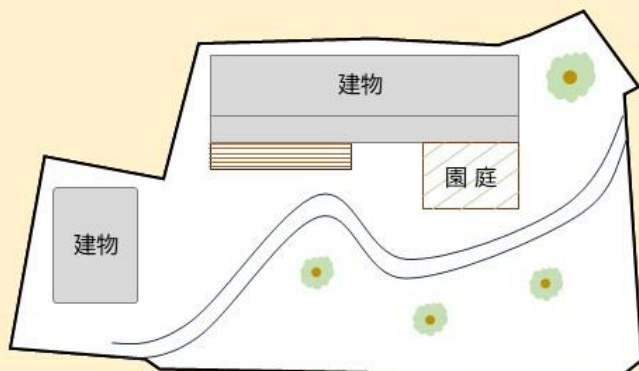
地域のやすらぎの場となる、若者にも開かれたフレキシブルな居場所
～誰でも・いつでも・いつまでも～

key word 子ども・交流・活気

目指す将来像

- 日中は園児や高齢者、放課後は小学生や中・高校生、休日は全ての世代など、様々な世代がシェアしながら、それぞれのやすらぎの場となる居心地の良い地域の居場所
- そこに行けば、出会える、つながれる、何かができる場所
- 中長期的にフレキシビリティのある施設として、世代やニーズの変化に対応する

●施設配置イメージ



POINT

■オープンスペースの確保

- ・子どもがボール遊びや運動ができるスペースを確保
- ・憩いや涼み処となる芝生や樹木、水辺（じゃぶじゃぶ池など）を整備
- ・キッチンカーや商店街の出店などを配置して、季節や時期に応じて、にぎわいを創出

■様々な人が集い、つながる場となる複合施設

- ・保育園や児童館を整備し、0～18歳までの世代に応じた子どもの育ちや居場所を確保。地域の人材や団体と連携して地域の子育て拠点に
- ・飲食可能なカフェスペース（ラウンジ）を設けて、おしゃべりや勉強、子ども食堂にも活用など、中・高校生を含め様々な世代や特性（学校になじめない子も含む）に応じた子どもたちの居場所となり、交流やつながりが生まれる空間に
- ・多目的に利用できるフリースペースを設けるなど、様々な世代やニーズに柔軟に対応できる空間とし、新たな出会いや活動のきっかけに

■利用しやすい、行きたくなる場所

- ・複合施設とオープンスペースの調和がとれ、開放感のあるオシャレな空間とし、誰でも気軽に訪れやすい場所
- ・地域の様々な人材・団体と連携して、施設運営にも地域が参画し、地域全体でかかわり・創り上げていく場所

感想共有エリア

自分も必要だと思う機能や面白いと思ったアイデアなど、**いいね！**と思ったことを付せんに書いて貼りましょう！

4グループが作成した成果物

group

04

コンセプト

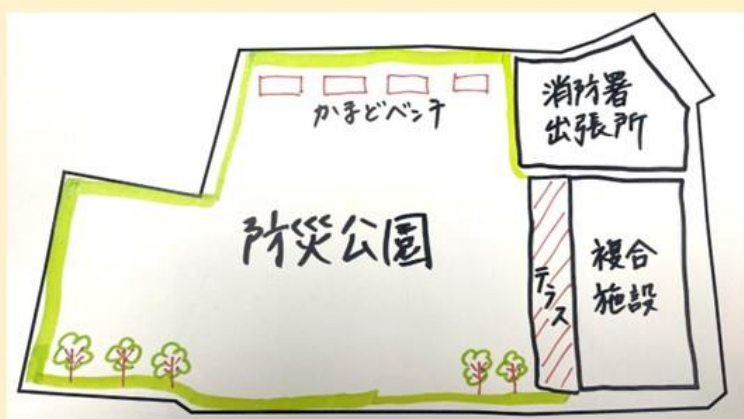
防災公園を!! 平常時はいろいろな用途に活用!

key word 防災・
広いオープンスペース

目指す将来像

- この地域の最大の課題である防災を視点に
- 地域の子どもたち～全世代が利用でき交流できる
- 公共ならではの施設づくり
～わくわく楽しく有効活用できる～
※駅近としては…
平常時のイベントの集客good
帰宅困難者対応good

●施設配置イメージ



POINT

■防災の視点

●防災公園を!

- ・広場として…避難者受け入れ、かまどベンチ、キッチンカーを入れることも
…テントも使える、仮設住宅も建てられる
- ・消防署出張所の誘致…消防署は防災にとって強い味方
※ただし…消防署跡地は子どもたちのための施設に転用

待ったなし!

■平常時の活用

- ・広場として…子ども～全世代が交流できるように!
フルオープン、フレキシブル
※特別な施設とすることで、専有化となってフルオープン
にならなくなる
- ・一部複合施設を建設…災害時は震災救援所となる
(地域住民による運営)

- (例) 1F オープンなスペースとオープンテラス
トイレ、調理場を備える
(地域、子ども食堂も出来る)
- 2F フリースペース
(遊べる!しゃべれる!多世代OK!)
- 3F (2Fと同じ)
- 地下 防災倉庫、駐輪場(スロープ設置)

パーティション
を移動させて
多用途に使える!

令和9年(2027年)
4月1日
解体開始を!!

感想共有エリア

自分も必要だと思う機能や面白いと思ったアイデアなど、**いいね!** と思ったことを付せんに書いて貼りましょう!

5グループが作成した成果物

group

05

コンセプト

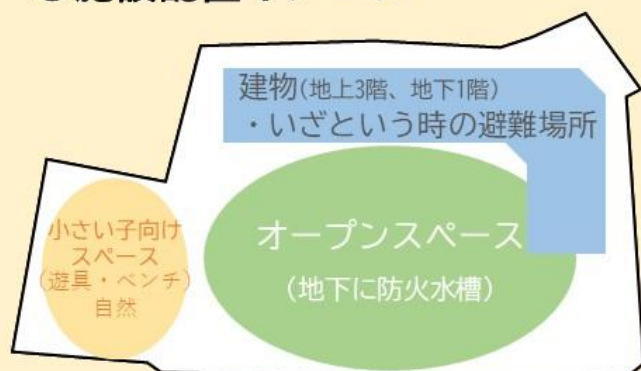
key word 子ども・防災

のんびり過ごせて、つながりが生まれる、いざという時の防災拠点

目指す将来像

- 日頃（日常）のつながりや施設が、発災時（非日常）にも活かされる
- 子どもから高齢者まで、気軽に集まり、のんびりと過ごせる
- ここで生まれた「つながり」で、地域の人材が、日常も非日常も、活躍し、支え合うことができる

●施設配置イメージ



■建物の用途■
体育室、集会室（100人規模）、調理室、自習室、音楽室、ラウンジ など

POINT

○日頃使う空間、顔見知りがある空間を、地域の防災拠点に

- ▶普段過ごしている場所、顔見知りの人がいる場所だからこそ、いざという時に、防災拠点として活用することができる
- ▶スフィア憲章・スフィア基準に合わせた避難所の確保・運営

○子どもから高齢者まで、自分のスタイルで、自由に過ごせる

- ▶小学生・中学生が、のびのびと遊び、勉強することができる（おしゃべりできるラウンジ、身体を動かせる部屋、自習室）
- ▶幅広い世代の人が、特に用事がなくとも、のんびりできる（公園、ベンチ、カフェ、集会室）
- ▶調理ができるスペースがあると、子ども食堂の運営や、調理教室の開催などで交流が生まれ、孤独・孤立の防止にもつながる

○地域の人材が活躍し、新たな人材を生み出す

- ▶「つながりを生む」をキーワードに、地域の人材が、自分たちの発想で活動ができる場所にしていく
- ▶その「つながり」の中で、地域の活動が盛んになり、新たな地域の人材が育ち、活躍できるようにしていく

○防災拠点には、そこを運営する「人」「人材」が重要

- ▶“ここ”で活動する地域人材が、いざという時の人材にもなる（特に若い世代が関わられるようにしていくことが重要）
（日頃から、20代～50代の世代を呼び込んでいく仕掛けも必要）

感想共有エリア

自分も必要だと思う機能や面白いと思ったアイデアなど、**いいね！**と思ったことを付せんに書いて貼りましょう！

6グループが作成した成果物

group

06

コンセプト

天沼みんなの家

key word 多様な居場所・防災

目指す将来像

- 自分の家のように安心できる場所
- 日々のつながりが生まれる場所
- いざという時に地域の人頼ることができる場所

●施設配置イメージ



- POINT
- ・建物を真ん中に配置し、日よけができるようにする
 - ・周りには緑を植えて、散歩道を設ける
 - ・オープンスペースは芝ではない素材で整備する

POINT

1 世代や用途を問わず誰でも使える場所

- ✓ フリースペースを設けて、地域の人からリクエストがあった催しを開催できるように（平和に関するイベントなど）
- ✓ 施設の1階はガラス張りにして、イベント開催時には開放して屋外のオープンスペースと一体で活用できるように
- ✓ 図書館の本が貸出・返却できたり、壁が移動する自習室も完備
- ✓ 重症心身障害児通所施設「わかば」のような福祉施設を入れて、災害時には利用者がそのまま待機できるように

2 地域の人々が集い、みんながホッとできる場所

- ✓ 屋外のオープンスペースではキッチンカーが来たり、お祭りを開催したり、楽しめる場所に
- ✓ コンセントの設置や低額で飲み物が買えるようにして、子どもたちの居場所になるように
- ✓ 1階のカフェスペースでは、子ども食堂や認知症カフェを実施
- ✓ 建物の周りには散歩道を設けて、散歩道沿いにはベンチを設置し、公園を見渡しながらおしゃべりが楽しめるように
- ✓ 屋上には遊具のある公園、地下には駐輪場を設ける

3 いざという時に震災救援所として機能する防災拠点

- ✓ 震災救援所として活用できる体育館や災害時にも使えるシャワー室を整備
- ✓ 地下には応急給水槽として機能する貯水池や核シェルターを

感想共有エリア

自分も必要だと思う機能や面白いと思ったアイデアなど、**いいね！**と思ったことを付せんに書いて貼りましょう！

7グループが作成した成果物

group

07

コンセプト

「つながる・育む・楽しむ天沼」

～子育てを中心とした
地域活性に根差した天沼施設～

key word にぎわい・交流

目指す将来像

- 地域のつながりを育み・楽しむにぎわいの場所
- 地域の子どもをみんなで育む多様性に富んだ場所
- 災害時にも活用できるみどり豊かなオープンガーデン

●施設配置イメージ



施設配置イメージは一例です。
他にも、複数のアイデアがありました。

POINT

つながりを育み・楽しむにぎわいの場所

- ▶地域のコミュニティ施設とする
～気軽に立ち寄ることができる、互いの顔が見える場所～
- ▶多用途に活用する
→例：ラウンジにテーブル・ソファを設置し交流広場として活用、フードコート（子どもは割引で子ども食堂の代わりに）、コワーキングスペース・チャレンジショップ、集会室、展示スペースを活用した企画展
- ▶体育館を整備し、多目的に活用する（収納庫、可動ステージ・席などを設置）
→災害時には建物を活用して避難者の受け入れ等を行う

地域の子どもを育む

- ▶子どもを安心して預けられる、遊べる環境を整備する
→保育園・児童館（中・高校生）・学童クラブの設置
- ▶障害の有無や国籍を問わず、多くの方が子どもや地域と交流できる環境を整備する
→福祉作業所・アイプラザ・多文化キッズサロン など

歩いて楽しいオープンガーデン

- ▶オープンガーデン・遊歩道を配置する（並木道・天然芝・屋上テラス）
- ▶涼を配置する（パーゴラ・オーニング・じゃぶじゃぶ池 など）
- ▶災害時は、防災拠点として活用できる工夫を行う
（避難スペース確保、ヘリコプター着陸場所、雨水浸透枳・防災倉庫・貯水槽の設置等）

区財政に優しい施設・運営

- ▶民間のアイデア・投資を促す（東京衛生アドベンチスト病院との連携等）
- ▶PFI事業、森林環境譲与税の活用

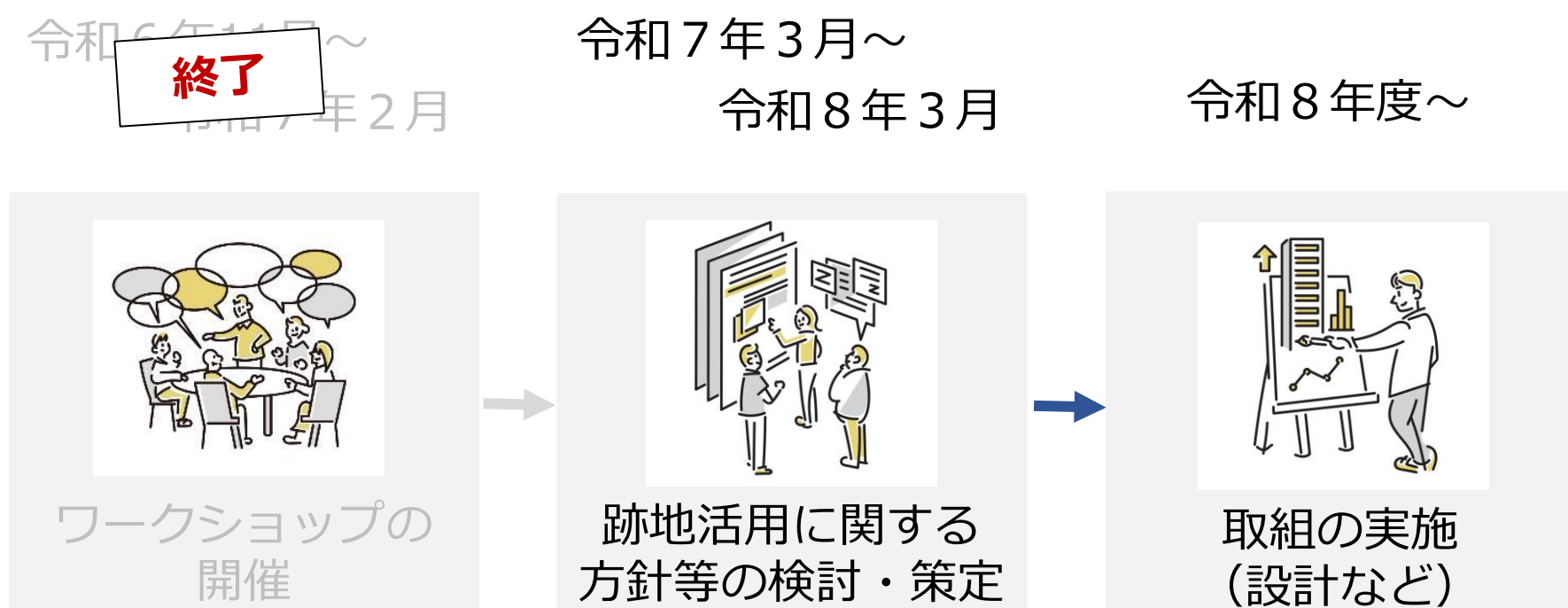
感想共有エリア

自分も必要だと思う機能や面白いと思ったアイデアなど、**いいね！**と思ったことを付せんに書いて貼りましょう！

今後跡地活用を検討するに当たって

- 今後は、これまで地域の方からいただいた意見や天沼小学校・天沼中学校の児童・生徒が考える活用方法、ワークショップで各グループが作成した成果物、今回のオープンハウスやアンケートでの意見を踏まえて、跡地活用案を検討していきます。
- その際、公共施設は区民共有の財産であることから、地域全体・区全体を俯瞰しながら、現在の区民はもちろんのこと、将来世代のニーズや財政上の負担等も考慮し、最も望ましい今後のあり方を「全体最適・長期最適」の視点を持って検討を進めていきます。

今後の検討の流れ



- ▶ 跡地活用に関する方針等の検討に当たっては、適宜、オープンハウス等を開催し、幅広く意見を聞きながら取り組んでいきます。

総評

今回のワークショップに学識経験者としてご参加いただいた 讃岐先生からの総評



東京都立大学 建築学科
讃岐 亮 先生

公共施設の将来のあり方の検討は、得てしてその議論の対象となる敷地内、施設内で考えてしまうものになりがちです。その中で、例えば「防災」や「若者たちの居場所」といった地域課題を捉え、まち・地域の視点で議論し、それを成果としたグループがいくつもありました。ここに、旧若杉小学校跡地を取り巻く地域の皆さんの慧眼を見た気がしています。

アイデアが多数寄せられたこと、議論したテーマが様々あったことを踏まえれば、それらをまとめ一つの姿にかえていく過程でこそ、この「まち視点」が生きるはずです。単純に「AとBとの組み合わせの相性」とか「合理性や財政負担」だけで決めるのはあまりに勿体無いです。今後も区民との対話の場として企画されているオープンハウス等への参加を通じて、あるいは区としても、この視点から、この旧若杉小学校跡地で本当に必要なコト・モノとは何かを考え、ブラッシュアップしていくことを望んでいます。

いずれにしても、このワークショップを通じて皆さんに「対話によるまちづくり・公共空間づくりには、変化・深化がある」ことを知っていただけた、あるいは改めて感じていただけたと思います。そして、こうした文化が杉並区に根付くことを期待しています。

終わりに

パネル展示は以上となります。ご覧いただき、ありがとうございました。アンケートの回答にご協力をお願いいたします（右下二次元コードからでもご回答いただけます）。※回答期限：**4月6日（日）**

皆さまからいただいた意見を参考に、旧若杉小学校跡地が地域の皆さまを中心とした、区民にとって魅力ある場所になるよう検討していきますので、ご協力をお願いいたします。



杉並区政策経営部企画課施設マネジメント担当